

FHD-B1/B2シリーズ

摩擦式ヒンジダンパー [両方向性] 固定式

RoHS対応品



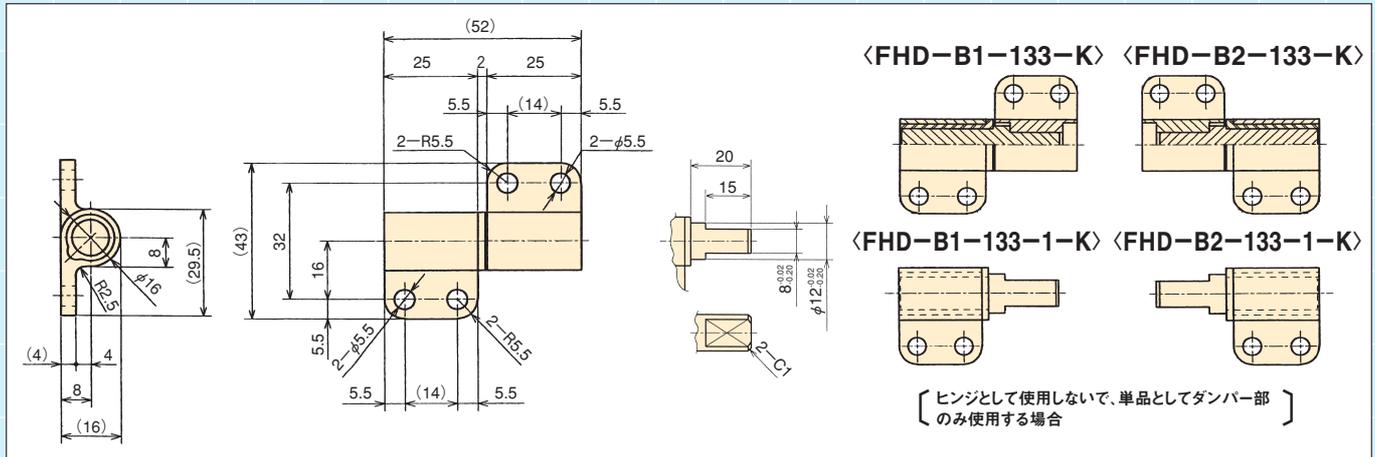
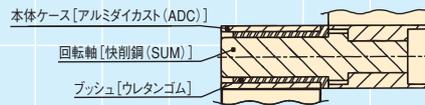
<仕様>

型式	定格トルク
FHD-B1-133-K	1.35 ± 0.34 N・m
FHD-B2-133-K	(13.5 ± 3.4 kgf・cm)

- *最大使用回転速度 15rpm
- *最大使用サイクル 5cycle/min
- *使用温度範囲 0℃~60℃
- *製品質量 FHD-B1/B2-133 :50g
FHD-B1/B2-133-1:40g

注) ダンパートルク値は、25℃±2℃時に2rpm時測定

(構造)



ダンパーの使用方法

- ①ダンパーは時計回り、反時計回りの両方にトルクが発生します。
- ②摩擦ヒンジダンパーは軸受けとしての使用が可能です。
- ③摩擦ヒンジダンパーは無潤滑で長期間使用することが可能です。
- ④ダンパー部に水やオイルがかかるとトルクダウンします。
- ⑤連続回転での使用はできません。揺動運動でご使用ください。
- ⑥使用条件によってはフリーストップヒンジとして使用する事が可能です。

下記の計算式に従って保持トルクを計算してからお使いください。

$$\text{保持トルク } T_0 = \frac{M \times 9.8 \times 0.5 \times L \times \cos \theta}{0.65 \times \alpha \times N} \quad (\text{N} \cdot \text{m})$$

M : 保持部質量

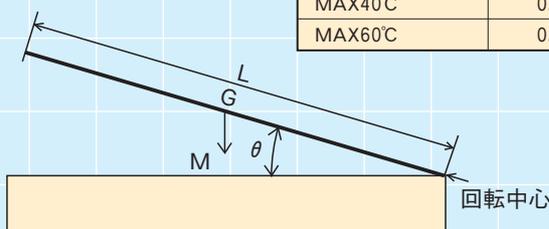
L : 保持部先端から回転中心までの距離

θ : 保持部の水平位置から保持角度

α : 上限温度での温度係数

N : ダンパー使用数

保持可能使用温度	α
室温 (25±5℃)	1
MAX40℃	0.75
MAX60℃	0.50

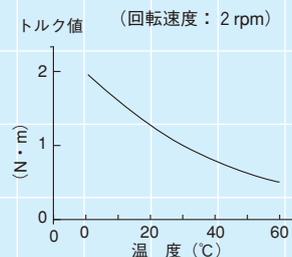


- ⑦ダンパー取り付け方法は横使いが基本となります。縦使いでの使用はご遠慮下さい。

ダンパー特性

①温度特性

ダンパー特性は使用環境温度により変化します、一般的に温度が上がるとダンパー特性は弱くなり、温度が下がるとダンパー特性は強くなります。これはダンパー内部の軸ブッシュが温度の影響を受けて変化するため、温度が元に戻ればダンパー特性も元に戻ります。



②速度特性

摩擦ヒンジダンパーの速度特性は下図のようになります。ダンパートルクは2rpmでの速度特性を基準として決定します。

